

5 ひき岩群と奇絶峡の動植物

① ひき岩群

田辺の市街地から、北に
ほぼ 5 km ほど離れた稲成町
の丘陵地に、奇怪な形の岩
山が並んでいるのがひき岩
群です。この岩山は 100 m
程の標高ですが、それぞれ
北側の斜面が垂直に近い絶
壁になっています。稲成川
中程の屈曲している地点に



ひき岩群

そびえている岩山の 하나가、和歌山県指定の名勝天然記念物「ひき岩」です。

明治 37 年（1904）、南方熊楠が田辺に定住してから、よくこのひき岩群などを訪れて、植物や菌類の観察や採集に明け暮れていました。彼の残した標本の中には、当時の稲成村産の植物標本がたくさん残っています。「手頃な採集地だし、いいものが見つかるし」といって、熱心に通っていたということです。

このひき岩群で見られる熊楠自慢の植物の主なものを次に紹介します。

ヒカゲツツジ：黄色の花をつける山地性のツツジです。（写真は 16 ページを参照）

イブキシモツケ：県下でも珍しいバラ科の低木です。春に咲きます。

バイカオウレン：霧のかかるところに群生するキンポウゲ科の草花です。

キキョウラン：乾燥地を好む熱帯系のユリ科の草です。



イブキシモツケ

キイジョウロウホトトギス：紀伊半島の特産種
で湿った岩壁に着生するユリ科の植物です。

タカノハウラボシ：霧のかかる深い山で岩や樹
幹に着生するシダ植物です。

マツバラシ：もっとも原始的なシダ植物です。

キクシノブ：熱帯系のシダ植物です。

サイゴクホンダウシダ：熱帯系のシダ植物です。

モウセンゴケ・コモウセンゴケ：岩場に生える
食虫植物です。コモウセンゴケの方が乾燥に
強く広い範囲に見られます。モウセンゴケは、
6から8月に白い花を、コモウセンゴケはピ
ンク色の可憐な花を咲かせます。



キイジョウロウホトトギス



キクシノブ



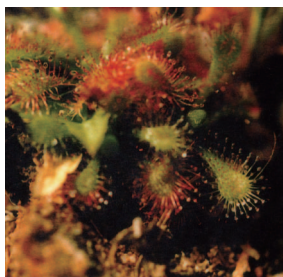
サイゴクホンダウシダ



マツバラシ



モウセンゴケ



コモウセンゴケ

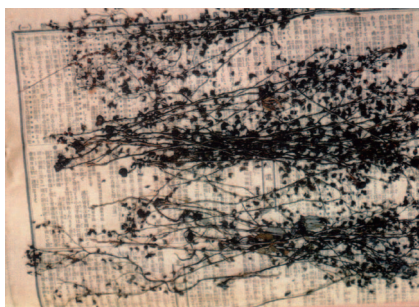


コモウセンゴケ (花)

以前から知られていた食虫植物のイシモチソウ、ホザキノミミカキグサ、タヌキモやヒナラン、スジヒトツバなどは最近では見つかりません。

ひき岩群の谷間で、わずかに標高50m 前後の岩かげに、このようにたくさんの植物が生育していたことは、たいへん珍しいことです。熊楠の当時はもっと多かったということです。熊楠が愛着し自慢していた気持ちはよくわかります。ひき岩群一帯は乾燥した岩山のように見えますが、その谷間には岩壁がいたる所があり、湿地や滝のような所もあります。このような複雑な環境のため、多くの貴重な植物が他の植物に滅ぼされることもなく、また、人間の採取からも逃れて生きのびてきたものと考えられます。

ひき岩群のこの裸の岩山は、一体どうして出来たのでしょうか。ひき岩群の母岩は、新生代新第三紀の分厚い単斜構造の堆積岩層です。それがいくつかの小さな断層によって区切られた後、河川の浸食を受けて深い峡谷が形成されました。しかし、



イシモチソウ（南方熊楠の標本）



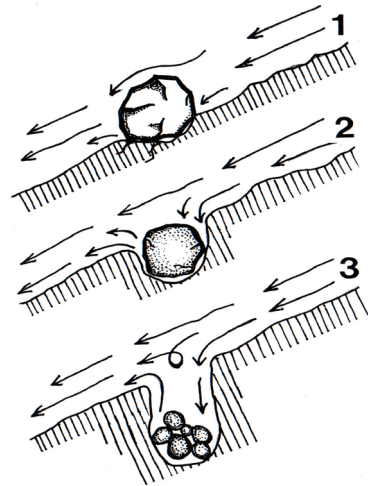
ひき岩の岩壁



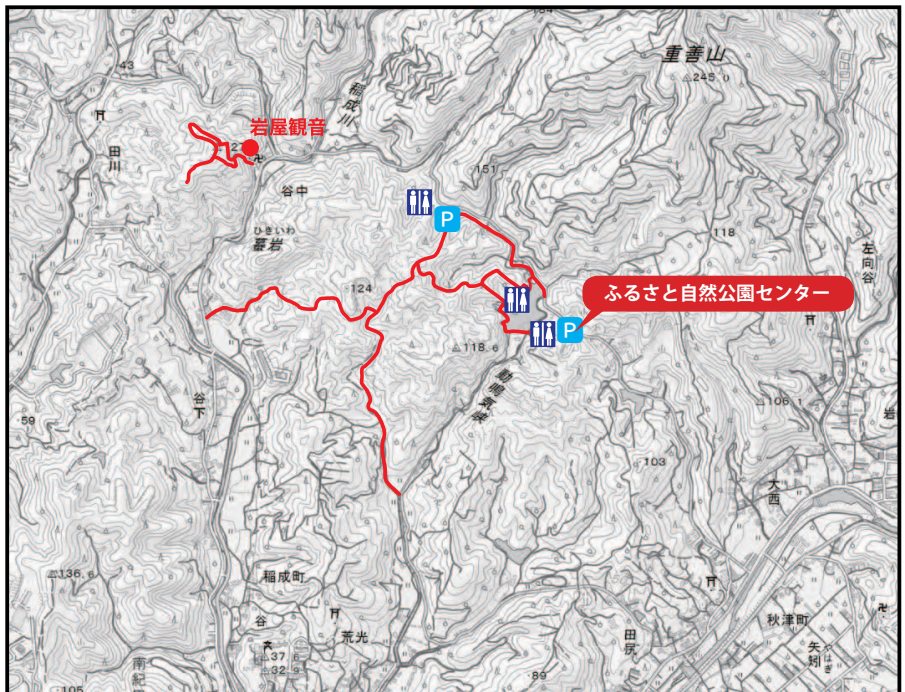
動鳴気峡

古い時代には、この峡谷は水量も豊富であつたらしく、^{どうめ ききょう}動鳴気峡には直径4～6m、深さ3～5mの巨大な^{おうけつ}甌穴が残っています。甌穴とは岩石が水流で回転して造った川底の穴です。

このように水量が豊かであったのは、本来この岩山一帯には深い森があつたからです。江戸時代から新庄付近で大規模な製塩事業が始まり、^{まき}薪にするため里山がほとんど裸になりました。ひき岩群の^{きゅうしゆん}場合、この急峻な地形のため表土が流失し、今の地形になったと考えられます。



甌穴の発達



ひき岩群の自然観察路

おそらく、昔のひき岩群は、ヒノキ、ネズ、クロマツなどとスダジイやウバメガシ、タイミンタチバナなどがまざった森でおおわれていたと推察されます。

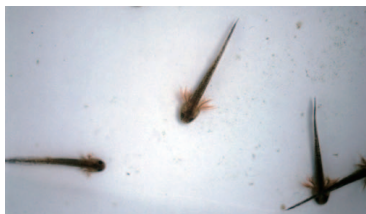
岩山の乾燥化が進んだ現在でも、その周辺にはカスミサンショウウオやアカハライモリが生息し、多くの貴重な昆虫類が確認されています。



カスミサンショウウオ



カスミサンショウウオの卵のう



カスミサンショウウオの幼生

② 奇絶峡

右会津川が三星山と高尾山との間を流れる地点に奇絶峡があります。県道の対岸に立派な滝があり、そばの岩壁には仏像の彫刻もあり、巨岩が点在した川に沿ってサクラやカエデも植樹されて、有名な観光地として、市民の憩いの場になっています。

奇絶峡の見どころは、峡谷をはさんで迫ってくる絶壁と、それをおおう照葉樹林です。ウバメガシを中心にウラジロガシ、タイミンタチバナ、サカキ、タブノキ、モチノキ、カナメモチなどの常緑樹が濃い緑の葉を広げ、カギカズラ、オオツヅラフジ、キイセンニンソウ、ジャケツイバラなどのつる植物が、樹上に広がって伸びているようすは、北の地方ではまったく見ることのできない南国的な景観です。

この岩場にはひき岩群で見られる植物と共通したものもかなり多いのですが、シダ植物やコケ植物ははるかに豊富です。アツイタ、ホウビシダ、ツルデンダ、イワヤナギシダ、ヤノネシダなど多くのシダ植物をはじめ、クマノゴケ、エビゴケなどのコケ植物、カギカズラ、サカキカズラ、シタキソウ、



奇絶峡



ジャケツイバラ



ツルデンダ

フウトウカズラなどのつる植物や、谷間の下草の中のシモバシラ、サイコクトキワヤブハギ、クサヤツデ、奇絶峽入り口の林縁に大群落を作っているタイキンギク、森林の構成樹になっているカンコノキ、カンザブロウノキ、トキワガキ、ミミズバイなど、実に多種多様です。

溪谷にそって道路があり、絶えず車が走っているため、大形の動物はあまり姿を見せませんが、それでもテンやニホンイタチ、アナグマなどは、ときどき人の目につくことがあり、夜間はコウモリが群れているのを見かけます。

おそらく山地性のモモジロコウモリではないかといわれています。

野鳥ではオオルリが毎年春にきて巣をつくります。岩壁のくぼみにコケ植物を分厚く積み重ねて立派な巣をつくる鳥で、姿はきれいで、ウグイスに匹敵する美声の持ち主です。



アツイタ



フウトウカズラ